

かねよし

レーザー切断加工増強

クリーンカット 熱延鋼板で可能に

一般鋼材やステンレス、アルミの加工販売を行うかねよし（本社：埼玉県川口市、吉田竜一社長）はこのほど、レーザー切断加工体制を増強した。トルンプ製の出力8キワットファイバーレーザー切断機を導入。熱延鋼板の「無酸化切断（クリーンカット）」が可能で、後工程の省力化などに寄与する。ベンダーやバリ取り機も新鋭機を投入しており、ワンストップサービスの拡充により、さらなる受注拡大を目指す。

8キワットファイバー2基導入

同社が保有するレーザー切断加工機6基のうち、出力2キワットと3キワットの既存機を更新。「TruLaser 5030 fiber」を2基新設した。

テーブルサイズは1530mm×3060mm。普通鋼（SS材）、ステンレス、アルミともに板厚最大25mmまで切断できる。銅や真ちゅうも10mmまで対応可能。

全6基のうち、高速加工のリアドライブが5基体制となり、生産性も向上した。最大の特長はステンレスで要望の多いクリーンカットを普通鋼で

実現できる点。クリーンカットはアシストガスに窒素を使用し、切断面の酸化被膜の発生

を抑える切断方法で、後工程で溶接などがしやすくなり、工程削減につながる。吉田社長は「今は鉄のクリーンカットのニーズがそれほど多いわけではない」としながらも、人手不足が深刻化する中で「開先加工

などの手間を考えると、これから需要が出てくると思う」と話す。現在は熱延鋼板（黒皮）で板厚最大3・2mmまで、クリーンカットの技術を確立しており、加工範囲をさらに広げていきたい考え。

ベンダーやバリ取り加工の強化も「可能な限り、需要家側の手間を減らしたい（同）」という発想に基づいたもの。ベンダーは加圧能力170kg、幅3分のトルンプ製「TruBend 5170」、バリ取り機は独・リスマック社製の「SBM-M1000」と「SBM-XS300」を増設した。

